

先日は急なお願いにも関わらず、新たなコロナ対策に速やかに対応していただきありがとうございました。未だ収束が見えないばかりか、あま市の感染者もさらに急増しています。私たちが「その時」を迎えるのは近いかもしれません。対応について具体的にイメージしておくことと、今できることが何かを考えておくことが重要です。

児童に新型コロナ感染者発生、そのときすべきことと、その前にすべきこと。

【そのときすべきこと】

- 対応はこれまでと大きな変化はない。基本的には、教育委員会や保健所の指導の下、濃厚接触者の洗い出しや保護者や地域への対応を速やかに行う。
- ① **児童が感染した場合**→電話対応者や担任は「問診リスト」（養護教諭より提案）に沿って保護者に聞き取りを行い、窓口である教頭に情報を伝える。
- ② 速やかに職員で情報を共有し、感染者の校内における 2 日間の行動経路や触れた物を確認。それらの情報をもとに保健所が濃厚接触者を特定する。
- ③ 職員は濃厚接触者認定に関わらず、クラスターが発生していないかを意識し、引き続き児童や教職員の健康状態を注意深く観察する。
- ④ 教育委員会等の判断により休業となった場合の保護者対応をする。
- ※ **児童が濃厚接触者となった場合**、PCR検査の結果に関わらず2週間の出席停止となる。担任は随時電話にて様子をうかがう。課題の郵送などは行わない。
- ※ **職員が濃厚接触者となった場合**、同じく2週間の出勤停止となる。いざという時のため、普段から学年で学習状況や単元の進行具合を確認し合っておく。

【その前にしておくべきこと】

- マスクにより脱水症状への気付きの遅れが増えている現状を伝える。机の横に水筒をかけさせ、こまめに水分補給を促す。季節柄小さな水筒も増えてきたが、袋に入れるなど工夫して身近に置かせる。
- 人権への配慮。感染者や濃厚接触者となった児童が停止明けに登校してきたときに、学級の仲間としてどう接するのがよいか、道徳などを利用して自分事として捉えさせ、考えさせる。
- 児童は同じ布マスクを連日着用していたり、唾液でぬれたマスクをつけていたりする。清潔なものを身に付けるように促す。
- 「調子が悪いと感じたら、無理せず休む」ことを強調する。兄弟姉妹関係で熱・咳などの症状があって欠席していたり、体調不良が続いていたるときには、担任同士が意識して情報を伝え合う。
- 報道の影響もあり、これまで以上に不安を感じている児童も多い。自分の机やイスを他者が使うことや、一時的にでも相手がマスクを外すことに抵抗を感じている様子も見られる。今後、職員は体育時に電子ホイッスルを使用する。
- コロナ対策の加湿タオルや、特別教室使用時の手洗い・消毒などについて「できているか」をもう一度見直す。習慣になるまで忘れがちなことなので、学年で声をかけ合いたい。